



レポート オーナーズフォーラム

毎月一回オンラインで開催しているオーナーズフォーラム。

まちライブラリーオーナーさんによる事例紹介や意見交換を行っています。

普段はオーナーさん限定ですが、これまでの内容をちょっとご紹介。

まだ参加したことのないオーナーさんやまちライブラリーを始めてみたいと思っている方、必読です。

第一部 まちライブラリー事例紹介

前半はオーナーさんによる発表。これまで14カ所のライブラリーが紹介されました。

●第1回 2月11日(木・祝)14:00~15:30

- ・出張型で展開。まちライブラリーは人がつながる場所
軒先珈琲×まちライブラリー(千葉県千葉市)佐藤紘孝さん
- ・自治体施設内のライブラリー。住民とのコミュニケーションも豊かに
なんぶまちライブラリー(大阪府守口市)福山京子さん
- ・喫茶店で編み物教室を開催。人が人を呼んで親しまれる場に
『はるのうた』まちライブラリー(兵庫県芦屋市)八幡圭子さん
- ・読書会を通じて交流。これからの目標は自分と社会の課題解決
まちライブラリー@Co・Lab香芝(奈良県香芝市)梶正人さん

●第2回 3月13日(土)14:00~16:00

- ・引っ越しても存続するライブラリー、本棚のテーマは「つなぐ」
つなぐデザインまちライブラリー(兵庫県たつの市)長谷川香里さん
- ・押し入れに本棚。配置に工夫を凝らして妄想スペースを確保
妄想の種まちライブラリー(兵庫県たつの市)堂野能伸さん

●第3回 4月21日(水)19:30~21:00

- ・印刷会社の仕事は人を繋ぐツールを提供すること
まちライブラリー@イーラボ(富山県小矢部市)山科森さん

- ・Facebook投稿をきっかけに誕生したお店の中のライブラリー
まちライブラリー@つねよし百貨店(京都府京丹後市)東田一馬さん

●第4回 5月12日(水)19:30~21:00

- ・子どもの居場所を見知らぬ土地でオープン
子どもと若者の図書館「衣笠駅徒歩1分図書館」(神奈川県横須賀市)北川幸子さん
- ・高齢化進む地方で人が集う場づくりを模索中
向小路まちライブラリー(岩手県花巻市)四戸泉さん

●第5回 6月2日(水)19:30~21:00

- ・自宅前に巣箱型本棚を設置。子どもや高齢者らの「縁側」をめざして
Little Free Library & Museum ちいさな帆(北海道北広島市)塚田真理子
- ・絵本の効果実感 台湾でまちライブラリーに挑戦
まちライブラリー@台湾(台湾台北市)清家直美さん

●第6回 7月7日(水)19:30~21:00

- ・集合住宅の共有スペースで、緩やかな居場所に。住民が24時間借りられる本棚
オハナふじみ野上野台プロッサム(埼玉県ふじみ野市)小林義之さん
- ・障がい者サービス施設に併設された本棚が交流とつながりの場に
まちライブラリー@ひびうた文庫(三重県津市)村田奈穂さん

第二部 本日のツッコミ・お悩みQ&A

後半はテーマに沿って、あるいは参加者のお悩みをみんなでお考えのコーナー。その一部をご紹介します。

◆増える寄贈本や古い本、どうして?

- ・場合によってはこちらで処分させていただくこともあると承してもらっています。
- ・どんな系統の本がほしいか発信し、利用者さんとそれを共有しています。

◆まちライブラリーって何と聞かれたら?

- ・いかようにも解釈できるのがまちライブラリー。どのライブラリーも、携わる人たちの思いや心地よいところに収まっていくようです。あまり説明にこだわる必要はないのでは。(まちライブラリー提唱者・磯井純充)

◆「感想カード」活用法



本に添えられた「感想カード」

- ・寄贈本を受け取る際に、メッセージがたくさん書かれた本を見せて「書いてください」と伝えます。連なったメッセージを見ると「書こうかな」という気になるようです。
- ・感想カードだけを読んで本を借りてもらうイベントを開催し、感想を読む楽しさを実感してもらいました。
- ・一度に大量に寄贈してくれる方に、感想カードを書い

てもらうのは難しい。そういう場合は、私たちが運営する障がい者サービス施設で働くスタッフに書いてもらっています。

- ・メッセージカードを本と一緒に並べてポップ代わりに飾っています。

◆運営資金の悩み

- ・イベント利用には部屋代として少額の使用料をいただいで、電気代に充てています。
- ・利用者から使用料などの申し出もありますが、お金は色々なものを引き連れてきてしまうのでお断りしています。みんなで作る場所にしたいので、自分でまかなえる範囲でやっています。
- ・身の丈に合った出費をしながら、身の丈に合った収入を得るのがいいと思います。投資した分を回収することが目的化してしまうと本末転倒になってしまうので気を付けたいですね。(磯井)

◆本棚見せて! 各地の本棚の写真を見ながら、それぞれの特徴や取り組みを紹介

- ・大工仕事が趣味だった祖父の手作りの本棚を使用。文庫本がぴったり収まるサイズに作られており、司馬遼太郎などの歴史本が揃っていて、今は夫が愛読しています。
- ・テーマを決めて並べることで、普段は借りられない本を借りてもらえることも。文芸本は1950年代から発行順に並べています。
- ・漫画の貸し出しが多いので、他にも色々な本があることを伝えたくて展示に工夫をしています。
- ・利用者に無料で本棚を貸しています。借りた方のお気に入り本が置いてあるので、興味を引くようです。ライブラリーが活性化したと感じています。

オーナーズフォーラム ブックフェスタスペシャルバージョン

9/23(木・祝)16:00-18:00 まちライブラリー@もりのみやのキューズモール

ブックフェスタジャパン2021[9/18(土)-10/24(日)]期間中、オンラインで公開。

オーナーさん以外の参加も大歓迎のスペシャルバージョンです。



イベントや各ライブラリーの情報はまちライブラリーHPから
<https://machi-library.org/>

本と市民と地域の力

ちょうどこの通信の原稿を書き出している頃、北海道から嬉しい知らせが届きました。

北海道千歳市の議会でもちライブラリーの再開が承認されたというのです。しかもその議決を地元の高校生40名が傍聴し、見守ったことも知らされました。

千歳市では、2016年12月に「まちライブラリー@千歳タウンプラザ」が開館しました。大雪の日のスタートでした。そのまちライブラリーは、かつて地域のデパートがあった古い商業施設を改造したもので、スポンサーは新千歳空港を運営する会社で地元への貢献事業として始まったのです。全国各地にできたまちライブラリーの中でも最大の規模であり、私としてもどんなふうにもまちの中で育てていくのか、育てていただけなのか期待と不安を持って見守っていました。利用者が少しずつ増えていくなかで、特徴的だったのは中学生、高校生の利用の多さでした。

開始から5年の歳月を経た2021年3月、新型コロナウイルスによる影響で、スポンサー企業はまちライブラリー閉鎖の決断を下されました。ところがこの決定に対して住民を中心に

2000名を超える再開の嘆願が集まり、市内の高校生、大学生へのアンケートでも再開への要望が強かったのです。それを受けて、今度は千歳市がスポンサーとなって再開することが決まりました。議会の傍聴した高校生もアンケートで再開を希望し、自らの希望が実現される瞬間に立ち会いたいという思いと、尽力してくれた市長をはじめ関係者に御礼を伝えたいという気持ちで、初めて議会の傍聴したそうです。

再開への議決にあたって「まちライブラリーの再開は、市民生活にとって重要かつ早急に解決すべき課題」と位置づけられたと聞きました。まちライブラリーがこれほどまでに千歳市の人々から愛されていたのかと、私にとっては涙が出るほど嬉しい連絡となりました。

千歳市にまちライブラリーが誕生して以来、多くの市民が利用してくださいました。親子連れ、シニアの皆さん、地域活動をしている人、そして静かに勉強したり、友人同士で談笑したり、思い思いに過ごす中学生や高校生たちの姿を改めて思い出しながら報告を聞きました。

無念の閉鎖を伝える時の辛い時期から、新たな再開を夢見ることができるようまでご努力された議会や市役所の関係者の方々に感謝するとともに、背中を押してくださった市民力に感嘆せ

ざるを得ません。正直、嘆願署名があっても結局は何もできないのではないかと思っていた自分を恥じる思いです。時に人の力が行政を動かす、地域の力を結集することになるということ、皆さんが示してくださいました。心より敬服いたします。

これからどのようなまちライブラリーにするのか、運営も含めてお手伝いすることになります。期待に応えられるものにするために、私なりに努力していきたいと考えています。

まだ名称も決まっていますが、新しいまちライブラリーは、「千歳市民まちライブラリー」とも呼べるものになるのではないのでしょうか。

このように最近では、まちライブラリーが地域の力、市民生活への糧につながることを期待される場面が増えてきました。

長野県茅野市でも駅前の公共空間を活用して「まちライブラリーブックフェスタジャパン2021」(9月18日～10月24日)のオープニングイベントを開催すると共に、本を活用して地域を活性化していこうというプロジェクトが始動しました。

9月18日、19日に茅野駅を挟んで東西にある文化施設と商業施設、その間をつなぐペDESTリアンデッキで、まちライブラリーの「植本祭」

まちライブラリー オーナーズフォーラム

第7回8/21(土)10:00-11:30 zoomにて開催
申込み:machilibrary.admi@gmail.com

と「古本市」さらには本と地域をテーマにしたセミナーを計画しています。もちろん全国にその様子を配信するとともに、茅野市民の方々に様々な形で参加してもらえるようにしたいと思っています。

これまで本は、読者が一人ひとり読み、それぞれの人が心の糧にするものであり、地域やまちに影響を与えられるものではないと考えられていました。しかしながら対面での交流や地域とのつながりが考え直されている今、本が多くの人を巻き込む磁力となり得ることを千歳市の出来事が教えてくれました。それは古くて新しいひとつの希望の光であるようにも思いますし、そうした本の力が徐々に認知されてきた証ともいえるのではないのでしょうか。

少なくとも、東京にいる私に千歳市での出来事を共有し、我が事として喜びを与えてくれた本の力を否定することはできません。

千歳の皆さん、本でつながる皆さん、本当にありがとうございます。

2021年7月

まちライブラリー提唱者 磯井純充
連絡先 mail: MSJ00657@nifty.com